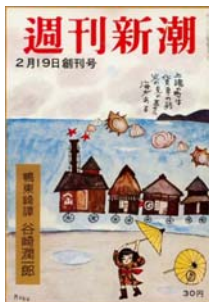


【誌名】週刊新潮 【発行】昭和31年2月19日
【編集人】佐藤亮一 【発行所】新潮社 【定価】30円



- ・昭和20年代の「週刊朝日」を始めとした『新聞社系週刊誌』全盛の中、初めての『出版社系週刊誌』として創刊
 - ・創刊編集長は、佐藤亮一（当時の新潮社副社長）
 - ・表紙のイラストは、谷内六郎。郷愁と安らぎを感じさせる抒情詩的で独自の画風。創刊号から昭和56年（59歳で急逝）まで25年間、表紙絵を担当。
- 『上總の町は 貨車の列 火の見の高さに 海がある』（房総 御宿の風景）

【誌名】週刊少年マガジン 【発行】昭和34年3月26日
【編集人】牧野武朗 【発行所】講談社 【定価】40円



- ・創刊号の表紙は、大関朝汐太郎（大相撲第46代横綱：高砂部屋）
- ・創刊編集長は、牧野 武（のちの講談社取締役）
- ・創刊号の定価は、40円だったが、同年5号で30円に値下げした。（少年マガジンと少年サンデーは、創刊前から定価を水面下で探りあい、少年マガジンの印刷後に、少年サンデーは30円と決定し発売。1959年3月17日水曜日、両誌は同時に店頭に並んだ。

【誌名】週刊女性自身 【発行】昭和33年12月12日
【編集人】黒崎 勇 【発行所】光文社 【定価】40円



- ・創刊号の表紙は、アメリカ・セブンスター誌：特約写真
- ・創刊時は、アメリカの『Seventeen』と提携したファッション誌。しかし、売上げが伸びず、皇室ネタを中心とした女性週刊誌として大幅に方針転換した。
- ・1975年創刊のファッション誌『JJ』は、本紙増刊号から派生した。

【誌名】JJ 【発行】昭和50年6月1日
【編集人】並河 良 【発行所】光文社 【今回展示なし】
【特価】450円



- ・赤文字雑誌（女子大生・若年OL等の女性を対象としたファッション雑誌）の一角
- ・『女性自身』別冊として隔月刊で創刊
誌名は、「Josei-Jishin」の頭文字をとって「JJ」
- ・創刊編集長は、並河 良（のちの光文社社長、同会長）
- ・表紙モデルは、ケレン吉川（撮影は篠山紀信）

【誌名】週刊明星 【発行】昭和33年7月27日
【編集人】本郷保雄 【発行所】集英社 【定価】30円



- ・創刊号の表紙は、安西郷子という女優、三橋達也の奥様。
- ・創刊編集長は、本郷保雄（のちの集英社顧問）
集英社では「編集の神さま」として、伝説の人となっている。
- ・創刊時の編集方針は若い読者層を狙った『週刊新潮』のジュニア版としてスタート、1959年に創刊された『週刊平凡』に部数で追い越されてから、芸能週刊誌に変更した。
- ・スターの結婚記事の多さで『週刊結婚』などとも呼ばれる。
- ・1991年12月26日 終刊

【誌名】週刊平凡 【発行】昭和34年5月14日
【編集人】清水達夫 【発行所】平凡出版 【定価】40円

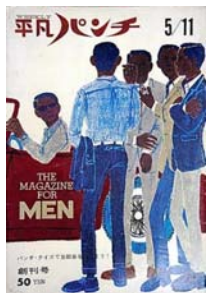


- ・創刊号の表紙は、高橋圭三と団令子、車はMGのスポーツカー
人気アナウンサーと女優を組み合わせた「異種交配」の表紙。
- ・創刊編集長は、清水達夫（マガジンハウス創業者、名誉会長）
「週刊平凡」「平凡パンチ」「an・an」を創刊し、戦後を代表する大雑誌に育て上げ、「雑誌の神様」と呼ばれた。
- ・1987年10月6日発行をもって休刊、同誌の歴史を閉じた。

【誌名】平凡パンチ
【編集人】清水達夫

【発行】昭和39年4月28日
【発行所】平凡出版

【定価】50円

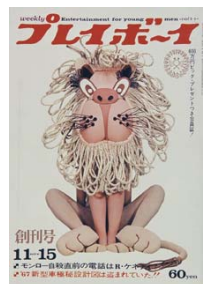


- ・日本初の男性週刊誌
- ・誌名の「パンチ」は、イギリスに同名の風刺雑誌があり着想を得た。
- ・創刊編集長は、清水達夫(マガジンハウス創業者、名誉会長)
- ・創刊号の表紙は、大橋歩(本名:石井久美子、多摩美術大学油絵科4年)のカバーイラスト。1971年12月27日号の第390号まで担当
- ・週刊誌として初めて女性グラビアを掲載した他、時代を先取りした車やファッション情報を発信、若者たちに衝撃を与え、「ノウハウ本」のはしりでもあった。1988年10月、惜しまれつつ休刊となった。

【誌名】週刊プレイボーイ
【編集人】五十嵐 洋

【発行】昭和41年10月28日
【発行所】集英社

【特別定価】60円



- ・創刊号の表紙は、ライオン。しかし、よく見ると、ライオンの顔のほほのあたりが女性の健康的なヒップでできている。以降、2年ほど女体とのオブジェが続くが、タコやペンギン、クジャクなど、動物と女体を組み合わせたカバーフォトの手法は秀逸。
- ・グラビア、ニュース、漫画、芸能ネタなどのほかに、「バカ記事」と呼ばれるジャンルを持つ。
- ・アメリカの成人向け雑誌「PLAYBOY」との関係はない。

【誌名】朝日ジャーナル
【編集人】和田 斉

【発行】昭和34年3月15日
【発行所】朝日新聞社

【定価】40円



- ・「報道・論説・評論」を3本柱として、週刊誌創刊ラッシュの渦中に創刊
- ・創刊編集長は、和田 斉(論説委員)
- ・創刊号の表紙は、佐藤真一「ひとびと」、モンパルナス近くの街で見かけた人達を描いたデッサン(昭和33年1月パリ滞在中の作品)
- ・1960年代から1970年代には、隆盛を極め、「手にはジャーナル、心はマガジン」、「右手にジャーナル、左手にパンチ」とも喧伝された。
- ・1992年5月29日号を最終号として休刊、以降2度単発で復刊

【誌名】週刊大衆
【編集人】矢沢貴一

【発行】昭和33年4月21日
【発行所】双葉社

【定価】30円



- ・創刊号の表紙は、女優の山本富士子
- ・創刊編集長は、矢沢貴一(「大衆娯楽の殿堂」をモットーに、双葉社を設立した米穀商矢沢領一の実弟、社名の由来は横綱双葉山)芸能情報系週刊誌として定着している。
- ・『週刊大衆』は出版社系週刊誌としては、3番目に創刊された。『週刊大衆』と『漫画アクション』は、双葉社の看板雑誌

【誌名】週刊少年サンデー
【編集人】豊田亀市

【発行】昭和34年4月5日
【発行所】小学館

【定価】30円



- ・創刊号の表紙は、当時巨人軍入団2年目の長嶋茂雄選手 巨人軍のキャンプ地であった兵庫県明石市の明石球場で撮影
- ・日本初の週刊少年誌。
- ・誌名の由来は、「この雑誌を読むと、まるで日曜日のように楽しい気分になれるように」という想いから、初代編集長が名付けた。
- ・創刊編集長は、豊田亀市(のちの小学館取締役)小学館の学年誌(学習雑誌)編集部次長だった豊田が、漫画を中心に据えた少年週刊誌の発行を社長に働きかけ創刊。(創刊前には「小学館の新児童誌」として宣伝)

【誌名】ジャイアンツ
【編集人】田中茂光

【発行】昭和51年4月1日
【発行所】報知新聞社

【定価】130円



- ・読売ジャイアンツの専門情報誌:ジャイアンツが監修を行っており、裏表紙脇には「監修・読売巨人軍」のクレジットがある。
- ・創刊号の表紙は、大西重成のイラストによる
- ・1975年の創刊時は、長嶋ジャイアンツ(監督)2年目。「燃える男のスポーツマガジン」というサブタイトルがついている。

【誌名】MR.HIGH FASHION 【発行】昭和56年11月1日
【編集人】今井田 勲 【発行所】文化出版局 【定価】550円



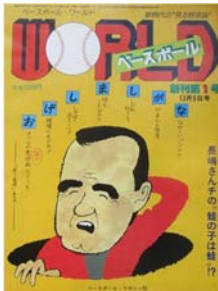
- ・創刊号の表紙は、ミスターハイファッションだけにミスター因みに、2号は萩原健一、3号は郷ひろみ、4号は坂本龍一
- ・発行は、学校法人文化学園文化服装学院の文化出版局
- ・長嶋の「嶋」の字が「島」となっています。
(長嶋さんは、時代によって「島」と「嶋」を使い分けている)
- ・『ハイファッション』に統合されるかたちで2003年に休刊

【誌名】週刊プロ野球セ・パ誕生60年 【発行】平成21年4月7・14日
【編集人】池田哲雄 【発行所】ベースボールマガジン社 【定価】290円



- ・ベースボールマガジン社が出版した分冊百科本、同社が初めて発行した分冊百科
- ・2009年は日本プロ野球が今日のセリーグ・パリーグに分裂して60周年目に当たり、「長嶋茂雄引退」の「1974年」を創刊号として発売
- ・創刊編集長は、3代目社長の池田哲雄(創業者池田恒雄の三男)

【誌名】ベースボールワールド 【発行】昭和57年12月5日
【編集人】池田郁雄 【発行所】ベースボールマガジン社 【定価】200円



- ・創刊号の表紙は、更科四郎のイラストによる
- ・創刊編集長は、ベースボールマガジン社2代目社長の池田郁雄会長へ退いた創業者の池田恒雄に代わり社長に就任
- ・ベースボールマガジン社の創業者池田恒雄は、雑誌記者出身者として初めて野球殿堂入りした(特別表彰)

【誌名】週刊読売スポーツ 【発行】昭和34年4月3日
【編集人】羽中田 誠 【発行所】読売新聞社 【定価】30円



- ・表紙のキャッチコピーは、『巨人黄金時代への三人男』(新主将の広岡達朗・藤尾茂の猛打・堀内庄の安定がカギ)
- ・創刊編集長は、羽中田誠。山日、読売新聞の記者を経て、読売社会部次長、婦人部長、報知へ出向後文化部長、社長秘書室長を歴任、この間「酔いどれ記者」「足—新聞は足でつくる」などの名著を残し、昭和41年定年後文筆生活に入る。

【誌名】週刊サンケイスポーツ 【発行】昭和33年7月27日
【編集人】前田重信 【発行所】産業経済新聞社 【定価】30円



- ・表紙のキャッチコピーは、『“黄金の腕”金田の秘密』
「①金田の敵は睡眠不足(睡眠は12時間)、②左腕と右腕が変わっていない(球を投げ続けているのに変化無し)、③月給の半分は食べる主義(栄養素のバランスが良い)」
- ・「表紙の人」より引用:長嶋茂雄三塁手(巨人)
高目の絶好球に彼—長嶋のバットは一閃した。四万観衆注視の中を、白球は生き物のようにぐんぐん伸びて、ホームランだ! 強烈な敵チーム粉碎の原動力!長嶋捨身の打撃の一瞬である。

【誌名】週刊テレビ時代 【発行】昭和35年4月3日
【編集人】根本峰好 【発行所】旺文社 【定価】50円



- ・旺文社の創業30周年事業として発刊(日本初のテレビ専門週刊誌)僅か5か月で「時の窓」(旺文社刊)と合併して廃刊
- ・旺文社社長は、赤尾好夫:「赤尾の豆単」で有名
- ・創刊号の表紙は、当時テレビで顔なじみの人気者14人発刊記念企画として、名前あて懸賞クイズ「わたしは誰でしょう?」綴じ込みハガキにより回答し、応募する企画であった。
①島津貴子 ②徳川夢声 ③大村 崑 ④水谷八重(後に八重子)
⑤高橋圭三 ⑥草笛光子 ⑦朝丘雪路 ⑧長嶋茂雄 ⑨黒柳徹子
⑩水原 弘 ⑪柳家金語楼 ⑫中村メイコ ⑬江木俊夫
⑭五十嵐新次郎(早大の英語教授:旺文社提供「百万人の英語」講師)